

《担当者名》○八木こずえ [co-yagi0913@hoku-iryo-u.ac.jp]
中安隆志 [nakayasu@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

慢性期にある精神障害者と家族を支援するための理論や方法を学び、慢性状態からの離脱や予防、リハビリを支援するための専門的な実践能力を養う。

【学修目標】

- 慢性期の精神障害者や家族がおかれている医療福祉の現状や課題、慢性期病態の特性とその対応の理解を深める。
- 慢性期の精神障害者のリハビリや社会生活への移行・維持に必要な看護の理論や方法論を事例に適用して学び、回復に活かす援助を修得する。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|----------|----------------------------------|---|------------------|
| 1 | 慢性期の精神障害者の理解 1) 入院治療の現状と課題 | 慢性期にある長期在院者と家族についての近年の推移や入院治療の現状から看護の役割と課題を理解する。 | 八木 |
| 2 | 2) 退院支援の現状と課題 | 近年の退院支援の現状から支援の困難性や課題を整理し、今後の看護が担う方向性を考察する。 | 八木 |
| 3 4 | 精神障害の慢性化と回復の援助 1) 慢性期病態と経過の特徴 | 精神障害が慢性に至る経過と病態特性、脆弱性仮説や社会環境要因も含めて慢性化をもたらす要因を多面的に理解する。 | 八木 |
| 5 | 2) 慢性期を生きる意味と精神障害のスティグマ | 慢性化要因であり社会参加の壁となるスティグマや施設症の影響と慢性期を生きる意味について学ぶ | 八木 |
| 6 | 3) 慢性化防止と回復の援助 | 慢性化の防止の援助とリハビリ、セルフケアモデル・ストレングスモデルから、回復の役立つ援助を学ぶ | 八木 |
| 7 8 | 慢性期に多い病態や身体合併症と看護介入 | 行動制限が必要になる自我障害、薬物副作用や病的多飲水、認知症の疑いや併存、セルフケアの低下、自傷行為など固定化した病態、がんや糖尿病など身体合併症の併存などからテーマを選び、事例を用いて慢性病態とそのケアのプレゼンテーションを行う。議論を通じて介入の検討を行う。 | 八木 鈴木大輔（特別講師） |
| 9 10 | 慢性期ケア困難事例の理解と専門看護師のケア | 慢性期に多くみられるケア困難状況について事例を通じて理解し、専門看護師のアセスメントや介入のスキルを学ぶ | 中安 |
| 11 | 地域生活の定着と充実への援助 1) 地域生活の現状と課題 | 地域生活を送る精神障害者を取り巻く制度や資源の変化から生活の現状と課題を理解する。 | 中安 |
| 12 | 2) ACTによる地域支援 | 地域生活を支えるACTの意義や発展の過程、課題を理解し、今後を展望する。 | 中安 |
| 13 | 3) 訪問看護におけるCNSのコンサルテーション | 訪問看護における援助技法の特徴や役割を学び、CNSのコンサルテーションの実践例から、課題や今後の展望を学ぶ。 | 中安 |
| 14 15 | 慢性期精神障害患者に関する看護研究の動向 | 慢性期精神障害者の看護ケアの向上に関わる研究の動向を調べ、文献を選択しテーマや研究デザイン、新たな知見や臨床での応用可能性まとめてプレゼンテーションし、議論を通じて研究への理解を深める | 八木 中安 |

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

プレゼンテーション（30%）、討議への参加状況（30%）、課題レポート（40%）で評価する。

【教科書】

指定しない。適宜資料を配布する。

【参考書】

1. 宇佐美しおり・野末聖香編集：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法. 日本看護協会出版会. 2009.
 2. 岡崎祐土・加藤敏編集：慢性化防止の治療的働きかけ. 中山書店. 2004.
 3. 宇佐美しおり編集：困ったときの精神看護. 医学書院. 2002.
 4. 高木俊介：ACT?Kの挑戦ACTがひらく精神医療・福祉の未来. 批評社. 2008 .
 5. 高木俊介、福山敦子、岡田愛編：精神障がい者地域包括ケアのすすめ—ACT-Kの挑戦 実践編. 批評社. 2014.
 6. 萱間真美：ストレングスモデル実践活用術. 医学書院. 2016.
 7. チャールズ・A・ラップ, リチャード・J・ゴスチャ：ストレングスモデル リカバリー志向の精神保健福祉サービス. 金剛出版. 2016.
 8. マーク・レーガン：リカバリーへの道. 金剛出版. 2010.
- その他随時提示する。

【学修の準備】

主体的な学びを深めるために2回のプレゼンテーションを行う。慢性期に多い病態や身体合併症のケア事例と慢性期精神障害患者の看護研究についての発表である。計画的に準備を進めて議論したい点を明確にして臨むようにする。

また、自らの看護体験から慢性期病態に関する困難性や看護のやりがいを振り返っておくこと、計画的にプレゼンテーションの準備を進めておく事。